

清末小説から 95

2009.10.1

セルバンテス最初の漢訳小説.....樽本照雄 1

《十月寒霜記》の原作.....渡辺浩司14

晩清小説作者掃描(貳拾).....武 禧20

清末小説から20、22

『清末小説』第32号を近く発行します(14頁参照)。本誌もそうですが表示の発行日よりも早めに刊行しているのが実際です。ウェブ上で公開していますから印刷する必要はないとはい

清末小説研究会 日本〒520-0806 滋賀県大津市打出浜 8 番4-202 樽本照雄方

セルバンテス最初の漢訳小説

『谷間鷺』について

樽本照雄

スペインの作家セルバンテスといえ、
「ドン・キホーテ」の名前が普通にで
くる。中国で最初に翻訳されたセルバン
テスの作品は、当然「ドン・キホーテ」
であろう。そう考えるのが常識かもしれ
ない。たしかに、該作品の漢訳がある。

林紓+陳家麟訳『魔侠传』2冊(商務

印書館1922)が有名だ。これが最初の漢
訳だ、というのが長い間の定説だった。

ところが、被褐(馬浮)訳「稽先生伝」
(『独立週報』第2年第7-8号1913)が、林
訳に先行して発表されている。部分訳で
あるにしても、これこそが「ドン・キホ
ーテ」最初の漢訳になる。この事実を前
にして、いままでの定説はもろくもくず
れる*1。

さらに本稿の題名にするセルバンテス
最初の漢訳小説とは、これまた今まで知
られていなかった部類のものなのだ。

記述がないことをわざわざいうのもい
かが、とは思。だが、それが事実だか
らしかたがない。

状況を理解してもらうために例をあげ
よう。

たとえば、朱景冬「塞万提斯作品在中
国」(《中国翻訳家詞典》編写組『中国翻訳

家詞典』北京・中国对外翻訳出版公司1988.
7. 表紙は『中国翻訳家辞典』。571-572頁)がある。セルバンテス作品とはいいいながら「ドン・キホーテ」だけを取り扱う。林訳は出すが、被褐(馬浮)訳には言及がない。

最近の専門書をあげれば、王寧、葛桂録等著『神奇的想像 南北欧作家与中国文化』(銀川・寧夏人民出版社2005.12)がある。中国におけるセルバンテスを紹介している(「塞万提斯在中国」124-131頁)。こちら「ドン・キホーテ」のみを取り上げる。ましてや、それらよりも前にセルバンテスの別作品が漢訳されていることに気づいていない。

誤解のないように補足説明する。専門家の知らないことがある。清末民初時期の翻訳小説研究には、まだ空白の部分が残っている。そのことをいうために、書名を示したにすぎない。

さて、セルバンテス最初の漢訳小説は、『模範小説集』(1613)のなかの作品である。

漢訳『谷間鷲』の底本

阿英目録(122頁)には、以下のように書かれている(傍線省略)。

谷間鷲 法彭生徳著。逸民訳。十回。
光緒三十(一九〇四)刊。

これだけ。まさかこれがセルバンテスの作品だとは、どう見ても推測すらできない。だいいち「法」とあって著者の国籍はフランスだと表示しているではない

か。著者だという「彭生徳」を中国音で読んでも、セルバンテスには結びつかない。

同一作品を収録する賈植芳、兪元桂主編『中国現代文学総書目』(福州・福建教育出版社1993.12。901頁)もある。こちらは、鴻文書局1906年版だ。また、中国現代文学館編『唐駉蔵書目録』(刊年不記[2003]。168頁)の番号4952に「1904.7訳者刊」と書かれる。旧暦新暦の混合表記だろうから、旧暦七月と記されていると推測する。

以上の記述から、つぎのことが理解できる。つまり、1904年に私家版で刊行したのち、1906年に鴻文書局よりあらためて発行されたい。

中国では、目録には採録されている。だが、阿英をはじめとして該作品に言及する人はいなかった。

だが、日本には追求する研究者がいる。そのことのほうが珍しい。

漢訳『谷間鷲』については、はやくから中村忠行が「清末の文壇と明治の少年文学 資料を中心として 2」(『山辺道』第10号1964.1.25。65-66頁)において説明している。先行文献であり、詳細な解説だ。長くなるが引用したい。

(前略)より注目すべきは、逸民訳の『谷間鷲』が出てゐることであらう。阿英編の前掲書目には、原作者を「法・彭生徳」と録してゐるが、彭生徳は生彭徳の誤植なるべく、セルバンテス・サベードラ Cervantes-Saavedra のこと。原作は、いふ迄もなく、『ドンキホーテ』(el

Ingenioso hidalgo Don Quijote. 1605 ~ 15.) の一部訳で、訳者が直接扱ったのは、三木愛花仙史関、齋藤良恭訳『欧州新話・谷間之^マ[乃]驚』である。華訳本が、原作者をフランス人に作るのも、齋藤訳が「仏国セルバント氏著」と訛るに因る。

もつとも『ドンキホーテ』を少年文学として扱ふか否かには、問題があらう。加之、齋藤訳については、柳田泉教授が、

内容は、スペイン富家の子ラドロフと美人レヲカジの奇縁を説いたものであるが、この人名も怪しい。不思議な事には、故あつてラドロフがイタリに流寓する條で、ラドロフの見聞するイタリの事情が、丁度現イタリ建國の際に當つて居り、サルヂニヤ王チャーレス・アルベルトとか、ジヨーセフ・マツジニとか、ガリバルジなどが出る。こゝに少し自由民権・国会願望臭がある。これは、十六世紀のセルヴァンテスの小説には、有り得ぬ筈の事である云々。註

と説かれてゐる様に、眉唾的な偽作小説であるらしい。而して、華訳者の意図も、むしろ政治小説の紹介といった程度のものであつたに違ひない。

漢訳最初のセルバンテスは、日本語からの重訳であるという。たどれば、原作スペイン語からフランス語訳をへて日本

語に翻訳されたことになる。文中で「註」と示してある箇所を見れば、「柳田泉『明治初期の翻訳文学』一三三頁」*2と書いてある。

中村の記述で新しいのは、漢訳『谷間驚』の底本が日本語訳だと指摘したことだ。書名を『谷間之^マ驚』と記す*3のは、柳田泉の説明を取り入れたからだろう。「ドン・キホーテ」が原作であるというのも同様である。

柳田泉の上の説明を読めば、「ドン・キホーテ」とは関連が薄いように思う。中村忠行は、それを感じ取り「眉唾的な偽作小説であるらしい」と書いている。

柳田泉の論文は、のちにまとめて『明治初期翻訳文学の研究』(明治文学研究第5巻 春秋社1961.9.15 / 1966.3.10二刷。97-98頁)になった。こちらで確認すると、原本についての間違いが訂正されている。重複するが関係箇所を紹介しよう。

『欧洲新話・谷間乃驚』

三木愛花仙史関、齋藤良恭訳とある。仏国セルバント氏著とあるので、その底本としたものがフランス訳であったことが知れる。原作の何であるかは、愛花氏序文に、「近者齋藤生一書を携へ来り、曰く、是れ西班牙の小説『ドンキーショット』中に録するものにして」云々とあるから、『ドン・キホーテ』中の一挿話であることがわかる。未だ仔細に対校してみないから断言は出来ないが、直訳または逐次訳でないことは確かであろう。内容はスペインの富家の子

ラドロフと美人レオカジの奇縁を説いたものであるが、不思議なことには、故あってラドロフがイタリアに流寓する条でラドロフの見聞するイタリアの事情が、ちょうど現イタリア建国の際のそれに当っており、サルヂニヤ王チャーレス・アルベルトとか、ジョーセフ・マッジニとか、ガリバルジなどが出てくる。ここに少し自由民権、国会願望の匂いがある。これは、十六世紀のセルヴァンテスの小説には有り得ぬはずのことである。フランス訳がそうになっていたものか、または本書の訳者齋藤氏の加筆したところか、それとも校閲者三木氏のなすところか、不明であるが、恐らく三木氏の加筆改削の結果、かく今めかしくしたものである(その後種種調べた結果、この訳の原本がわかった。それはセルヴァンテスの作は作であるが、『ドンキーショット』すなわち『ドン・キホーテ』ではない。彼の短篇集『模範小説集』というものの一つ、英訳では「血の力」というものである。それを土台にしていろいろなものをもまぜたのである)。

『谷間乃鷲』と書名を訂正しているほかはほぼ以前の記述のままであることがわかる。しかし、大きく異なるのは、最後部分につけ加えられたカッコ内の文章なのだ。『模範小説集』に収録された1篇であり、英訳でいう「血の力」が原作だという。

さらにもう1カ所に言及がある。

「翻訳文学研究 その史的意義について」において、「セルヴンテスの作品の紹介三部(その一は『ドン・キホーテ』、他の二は短編集『模範小説集』からのもの)で全部である」(189頁)という。その書名をみつつあげている(角書2行表記は1行にする)。

明治二十年「欧洲新話 谷間^{ママ}之鷲」
(齋藤良恭訳)

同 年「欧洲情史 美人^{ママ}之畏」
(中村柳塙訳)

同 年「鈍喜翁奇行伝」(ワ、シ
訳篇)(教育雑誌、渡辺修次郎)*4

「鈍喜翁奇行伝」が「ドン・キホーテ」だ。ゆえに前のふたつが『模範小説集』からの作品になる。

日訳『谷間乃鷲』

私の手元にある『谷間乃鷲』の表紙には以下のように記述される。

仏国セルバント氏著 / 愛花仙史 閱
齋藤良恭訳
欧州新話 / 谷間乃鷲

以下に頁数と回目その他をかかげよう
(アラビア数字を使用する。以下同じ)。

愛花仙史「序」1-3頁

目次 4頁

本文 5-117頁



初版



再版

歐洲 / 新話 たにま うくひす
 谷間乃鶯
 仏国 セルバント氏著

/ 日本 齋藤良恭訳

第1回 げつかあふきくわにびじんのなみだ
 月下逢奇禍美人涙
あんちうしやうすしゆくえんをざうくわのたはむれ
 暗中証夙縁造化戲 5-22頁
 (挿絵 佳人月夜二窮厄二遇フ)

第2回 せうぢよともなみだととくさいやくのぢやうを
 少女和淚說災厄状
せいざうなしてしやうをふすあんえんのせんを
 腥像為証伏因縁線 22-33頁
 (挿絵 美人涕ヲ吞テ窮厄ノ状ヲ説ク)

第3回 ちじのふうりうむすびあだをせうねんに
 知事風流結仇少年
さうしのがうたんおほいにのゝしるはふくわんを
 壮士豪胆大罵法官 33-49頁

第4回 くわいしろうじやうにせうねんなすみつぎを
 会楼上少年為密議
やぶりてらうしやをけうかんすくふしんいうを
 破牢舎俠漢救親友 49-59頁
 (挿絵 風雨ヲ冒テ壯士友人ノ急ヲ救フ)

第5回 いでゝしちを てうえるせいちを
 出死地一朝得生地
さつてこきやうを にんあそぶたきやうに
 去故郷三人遊他郷 59-64頁

第6回 あんきやうのあんなむすびあんなあいのくわを
 怨仇之因結恩愛果
じひのこゝろひくけつみやくのじを
 慈悲之心惹血脈兒 65-71頁

第7回 みとめてきやうをせうふしるしゆくあんなを
 認旧様少婦知夙縁
きゝてぜんじをしんしおどろくまぐつに
 聞前事紳士鶯奇遇 71-79頁
 (挿絵 小兒ノ災害良縁ノ媒ヲ為ス)

第8回 たきやうのいうらんにせうねんおこしこゝろざしを
 他郷遊覽少年起志
きやうこくのくわいこにさうしひくかんを
 旧国懐古壯士惹感 80-109頁
 (挿絵 老紳士夫婦ノ慈心)

大団円 109-117頁
 (挿絵 佳人壯士ノ団縁)

奥付 明治廿 年三月十五日版權免
 許 / 全年四月出版

翻訳人 千葉県士族 齋藤良
 恭 / 出版人 東京府平民 千葉茂三
 郎 / 発兌所 共隆社
 (原文のまま。住所省略)

稗史小説出版書目1-10頁

再版本 本文は同じ、挿絵を削除する。発兌を共隆社から大川屋に変更。
奥付 明治廿 年三月十五日版權免
許 / 全年四月出版

明治廿六年一月再版

翻訳人 齋藤良泰^{ママ} / 出版人
大川錠吉 / 印刷人 瀧川三代太郎 /
発兌 大川屋

(住所省略 奥付の書名は「谷
間の鶯」)

大川屋出版目録1頁

作品の内容を簡単に紹介する(牛島信
明訳「血の呼び声」を参照した。[]は牛
島の訳語。()は樽本の注釈)。

第1回 スペインはトレードの夏の
夜だった。家族と納涼の散歩をして
いた少女レヲカジ[レオカディア]は、
偶然若者ラドロフ[ロドルフォ]らと
すれ違った。裕福だが不埒な性癖の持
ち主である若者は少女を誘拐する。自
宅に連れ込むと情欲にかられて気絶し
たままの彼女を犯す。若者が出てい
ったすきに、少女は部屋にあるキリス
ト像を身に隠した。将来、これは証拠
となるであろう

第2回 若者は、少女の逃がしてほ
しいという懇願を受け入れる。目隠し
をさせたまま屋敷を出ると広場で彼女
を解放した。自宅に帰った少女は、自
分の身にふりかかった災難を両親に語
って聞かせキリスト像を見せる。

第3回 (原作にはない加筆) 知事某

が若者ラドロフの庭園を訪問するとい
う約束がなされる。両者の考える時間
に行き違いがあり、知事は自分が侮辱
されたと感じた。怨みを晴らす機会を
うかがっていたところ、事件がおこる。
若者が邸内工事中の職人を打ちのめし、
それが原因で職人は死亡した。ラドロ
フは逮捕され裁判となる。(原作の若者
は、屋敷住まいの身だ。日本語訳では、設
定が変化する。家の普請をはじめから主
人になっている)

第4回 (原作にはない加筆) 牢舎に
つながれた若者は、友人4名に救われ
て脱獄する。(友人のひとり^{リチャード}は李茶垂とい
う。スペインだからリカルドにすればそれ
らしく見えるのだが)

第5回 (ほとんど原作にはない加筆)
身を隠した若者は父親と面会し、外国
旅行をすることにした。(原作では見聞
を広めるために予定されていた外国旅行だ。
それにつないだから、逃亡行を外国旅行と
称する無理が生じている)

第6回 少女レヲカジは両親の家に
ひきこもる。妊娠が判明しそのまま男
子が誕生した。路易^{ルイ}[ルイス]と名づ
けられた子は、里子に出されたあと父
の甥として家族に引き取られる。ルイ
が6歳[7歳]のとき、馬にはねられ
負傷をした。それを目撃した老紳士が
ルイを自宅に運び込んで医者^{リチャード}に治療を
させた。驚いてレヲカジ一家が駆けつ
ける。老紳士がいうには、自分の息子
に似ているから手をさしのべた、と。
(老紳士はルイにラドロフの面影を見た。

すなわち「血の呼び声」である。セルバンテスの原作では時間の経過を7年とする)

第7回 レヲカジは、ルイが寝かされている部屋を見渡して気づいた。自分が誘拐されてきた部屋に違いない。顛末を話し、キリスト像を示してその証拠とした。当時の知事も転任したことだし、イタリアにいるラドロフをただちに呼び戻す。(話のつじつまをあわせるため、知事は転任、地元の人々も彼の破獄を忘れたことにした)

第8回 (原作にはない加筆)ラドロフらは逃亡先ラウマ[ローマ]の観光をする。その歴史を述べ自らの考えをふくめてさらに長々と独白がつづく(85-108頁。この箇所にもガリバルジなどが出てくる)。その結果、自らの非を認めるにいたる。つぎに子ーブル[ナポリ]へ赴く(96頁から後半。サルジニヤ王チャーレス・アルベルト、ジョーセフ・マッジニ、ガリバルジなどが出てくる)。結婚のため帰国するように故郷より連絡がある。(第8回のみページ数が特別に多い。ほかの回は平均して約11頁をすこし超えるくらいだが、ここだけで30頁もある)

大団円 ラドロフらは、6年ぶりにトレードに帰った。ラドロフは容色美しいレヲカジに心を奪われ、ふたりはめでたく結婚した。

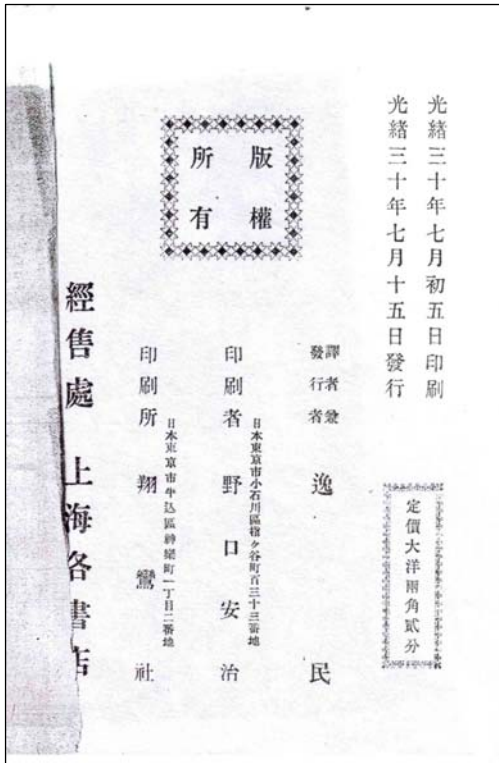
原作にない加筆は、第3-5回および第8回に見ることができる。前者は、ラドロフがイタリアへ行く理由を創作

し原作からはずれる。後者はひろくいえばイタリア史になる。なにかの歴史書にもとづいたか、あるいは訳者の創作かもしれない。全体の119頁からいえば、加筆だけで64頁を占めている。つまり、原作にもとづいた翻訳は55頁にすぎない。6割近くが別物であって加筆部分のほうが多い。不思議な作品であるといえよう。原作は短編小説だから、単行本にするために増量の必要があったのか。それよりも、原作のラドロフは、自分の悪行を反省することなくイタリアで7年間もすごしている。17世紀のそういう作品なのだ。明治人がそれをどう見るか。性根が曲がっている、許し難い態度だ、と訳者の齋藤良恭が考えたとしても不思議ではない。だからこそその加筆だろう。

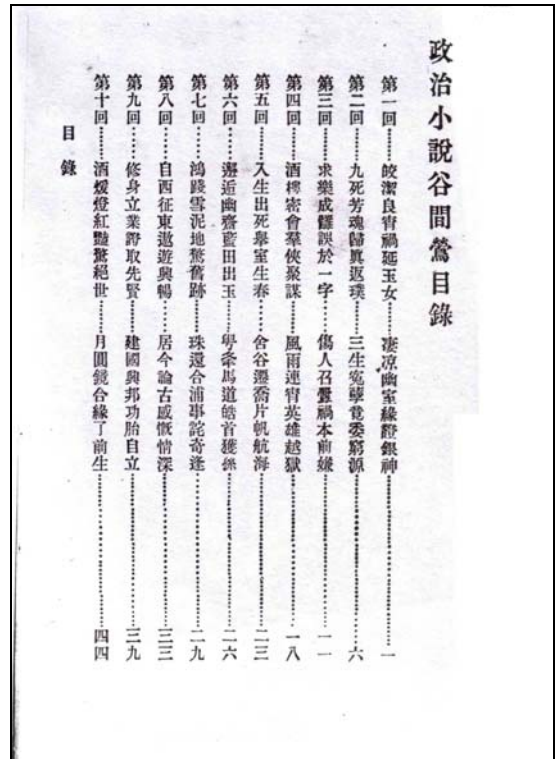
例をあげれば、ラドロフが見聞を広めるために国会を傍聴する箇所がある(ルビ、傍線を省略し、句読点をつける。変体仮名も置き換える。以下同じ)。

其時恰も好し。国会議院開場の折りなれば之が傍聴をなしけるに、流石は他国の領属を離れて不羈独立の国となりし程ありて、議場の様、議員の氣風大に優る所あるを見てラドロフは太く之を慕はしく思ひ、躬らも国に帰りなば必ず議員の群に入り、民の為に自由の氣を盛んにし、国の為に富強を立てんと志を定めけり。106-107頁

前出柳田泉が「少し自由民権・国会願



奥付



目次

望臭がある」と書いたのは、ここらあたりに関連しているだろう。

ラドロフに改心してもらわなければ、レヲカジと結ばれる大団円にたどりつかない。イタリアの地で、不十分ではあるにしても意識の変革をなしたことにする。一応の道徳的な責任をとらせる必要を記者は感じたということではなかろうか。などと1880年代における明治人の心情を推測してみたり。別の理由があるかもしれない。

漢訳『谷間鷺』

はじめにお断わりしておく。私は、漢訳『谷間鷺』の全部は見えていない。手元にあるのは複写で、しかも本文といえはかろうじて第1回の全部と第2

回および第9、10回の一部のみである。

とりあえず目次にある回目と奥付をかかげる。

政治小説谷間鷺目録

- 第1回 皎潔良宵禍延玉女
凄涼幽室縁証銀神
- 第2回 九死芳魂帰真返璞
三生冤孽竟委窮源
- 第3回 求楽成讎誤於一字
傷人召讐禍本前嫌
- 第4回 酒楼密会群俠聚謀
風雨連宵英雄越獄
- 第5回 入生出死拳室生春
舍谷遷喬片帆航海
- 第6回 邂逅幽齋藍田出玉

粵拳馬道皓首獲孫

第7回 鴻踐雪泥地驚旧跡

珠還合浦事詫奇逢

第8回 自西征東遊興暢

居今論古感慨情深

第9回 修身立業証取先賢

建国興邦功胎自立

第10回 酒煖燈紅艷驚絶世

月圓鏡合縁了前生

奥付 光緒三十年七月初五日印刷 /

光緒三十年七月十五日発行 / 定價大

洋兩角貳分

訳者兼発行者 逸民

印刷者 野口安治 日本東京
市小石川区指ヶ谷町百三十三番地

印刷所 翔鸞社 日本東京市
牛込区神楽町一丁目二番地

經售処 上海各書店

回数が日本語訳とは異なる。

日訳は、8回および大団円で、回数になおせば9回だ。漢訳はちょうど10回にしている。1回分が増えた。なぜかといえば、日訳の加筆部分、あの長い第8回を漢訳では2回に分割したからだ。大団円は第10回に数えた。それにしても漢訳本文は47頁にしかない。日訳が117頁だから、いくら中国語に翻訳すれば圧縮されるとはいえ4割だ。翻訳の基本方針は、省略だといっている。

本文第1回の冒頭には、「政治小説 谷間鶯 法国彭生徳氏原著」とある。その一方で柱は「欧西艶話」と表示する。政治小説と欧西艶話では、矛盾す

と思われるかもしれない。だが、日訳のセルバンテス原作が欧西艶話であり、加筆部分が政治小説だと考えればよい。漢訳者の逸民は知らなかっただろうが、もとがふたつの異なる物語だ。漢訳にみる2種類の角書は、それを反映している。

漢訳は、もとの回目を無視してすべて書き直した。

発行日の光緒三十年七月十五日は、西暦になおすと1904年8月25日である。

日本の印刷所である翔鸞社は、中国の印刷物をいくつか引き受けている。たとえば、(美) 坡 Edgar Allan Poe 著、会稽碧羅女士(周作人) 訳『玉虫縁』(翔鸞社1905)がある。ポーの『黄金虫 THE GOLD-BUG』が原作で、周作人が底本にしたのは山縣五十雄訳註『宝ほり』であった。もとは英語学習用のテキストなのだ。漢訳をわざわざ日本で印刷したのは、小説林社の関係者、あるいは知り合いに留日学生がいたことを想像させる。

『谷間鶯』は、奥付に「訳者兼発行者 逸民」と書いてあるだけ。出版社の名前は見えない。逸民(筆名だ)が、日本留学中に入手した日訳書をそのまま漢訳して私家版として日本で刊行したと推測していいだろう。

漢訳を原文の日訳とすこしだけ比較対照する。

日訳第1回の「月下逢奇禍美人涙 暗中証夙縁造化戯」は、冒頭で事件のはじまりを示し、同時に物語の終結を予告した回目である。

「月夜に思いがけない災難にあい美人は泣き濡れ」が、レヲカジがラドロフに襲われるくだりを説明する。後半の「暗闇のなかで前世の因縁を証明する運命の戯れ」は、部屋で見つけたキリスト像が最後にふたりを結びつける証拠になることをいう。

それを漢訳ではつぎのようにする。

「明るく美しい夜に災難が美女にふりかかり [皎潔良宵禍延*⁵玉女] 惨めに閉じこめられた部屋に因縁が銀の神を証拠とする [淒涼幽室縁証銀神] 」

漢訳の「銀の神 [銀神] 」は、日訳の「棚の上に基督が十字架にかゝりたる小き銀の像ありければ」(21頁)にもとづく。それを翻訳して、「見れば戸棚のうえに十字架がひとつかけてあり、それにはキリストの小さな銀の像が鑄造してあった [見戸棚上懸十字架一。上鑄基督小銀像] 」(6頁)である。原文に忠実だということができる。

回目に関しては、漢訳は日訳と内容は同じだが、表現を変えた。

冒頭の原文(【齋藤】)と漢訳(【逸民】)を比較する。

【齋藤】赤旆空に翻て祝融威を逞ふし、時しも夏の最中なれば、炎暑は宛ら蒸すが如く、絺綌を着るも堪難き昼の気候に引かへて、晩風樹々の梢に起り、涼味は池水の面に動き昼の苦熱も忘らるゝ。5頁

【逸民】赤阪西横、火山南赫。時方炎夏、熇暑歊蒸。雖御絺綌、晌午輒難容忍。迨赤輪下沈、晩風徐扇、樹

柯摇曳、始覺神爽心激。遂乃揮毫卻暑、握管消閑。1頁(注：漢訳につけられた傍点は「 」と「 」だ。適宜句読点にかえた)

(鮑照をふまえて) 赤い坂が西に横たわり、火の山が南にあかあかとした酷熱の、ちょうど真夏であった。あぶる灼熱、炎熱の熱気は、薄物を身につけているとはいえ昼にはまだ耐え難い。太陽が沈み晩の風がゆるやかにおこり樹木を揺らしてはじめて気持ちよく感じ、ようやく暑さのすきをつけて出かけようかということになる。

漢訳は、語句を選んでやや難解な漢字も使用している。もともなった日本語がそうなっているのを利用しただけかもしれない。翻訳だから表現こそ異なる。だが、原文の意味は十分に把握しているといっている。文言を用い、しかも旧小説の形式をとらない。

父母と娘、召使いの4人は、池のほとりを納涼しながら時刻が夜中になっているのに気づかなかった。あわてて帰るその途中に事件は起こった。金持ちの息子で無頼のラドロフが、行き会ったその娘レヲカジを見そめ仲間と襲うその場面はこうだ。

【齋藤】一人の漢はレヲカジ嬢の傍に駆寄りて、慌てるレヲカジの腕を捕へ其儘腋に引抱へて元来し方へと逃去たり。斯と見より紳士は声かけ狼藉もの奴逃るとて何とて逃遣べき

やと追んとすれば、他の漢は前に回
て遮り留め行手の邪魔を為ける故に
終にレヲカジを攫たる漢の影を見失
ひたり。9-10頁

【逸民】見一人馳向蘭閨女、捉腕摟
腰奔去。翁大声疾呼、欲窮追奪之、
見阻于三人、不得進。蘭閨女形影既
杳。3頁

見ればひとりがレヲカジに駆け寄
り、腕をとらえ腰を抱いて走ってい
った。父親は大声で叫んで追いか
け取り戻そうとしたが、ほかの3人
に邪魔されて行くことができない。レ
ヲカジの姿は見えなくなっていた。

原文の大筋を把握しておりほぼ忠実
な漢訳である。忠実のままにつづくか
と思えば、漢訳したくない箇所もあ
らしい。以下については省略した。

【齋藤】嗚呼ラドロフの身に取りて
趣もなく快樂もなき一時の情欲を遂
げたるまでなれどレヲカジの為め
には其一身に於て最大貴重なる宝
玉を奪ひ去られしと同じけり。凡そ
五管の感動は大抵其情欲を遂げ
たる後には自ら薄らぐは人間の常
なればラドロフも一たび己れが欲
心を達せし後はレヲカジを慕ふ
心も醒め果て、
(後略) 11-12頁

説明が赤裸々で、逸民は漢訳の筆
がすすまなかったと見える。ほかに
レヲカジの独白についてもすべてそ
のままに翻訳しているわけではない。
犯行

について犯人さえ口を閉ざしてい
れば私(レヲカジ)からはすすんで
公言するものではない、などと哀願
する部分も省略する。筋をはずさ
ない程度に、ということだ。

事件の証拠となるキリスト像に
ついてもういちど見てみよう。

【齋藤】唯棚の上に基督が十字架
にかゝりたる小き銀の像ありければ
此時レヲカジの心中には特に信仰
の思ひを起したると云ふにはあら
ねど若しも後來に至りて此品の為
めに今宵の事を知る手続きともな
らんかと思ひければ其銀像を取り
て其儘懐中に収め(後略) 21頁

【逸民】見戸棚上懸十字架一。上
鑄基督小銀像。時蘭閨女頓發信
仰之心。因摘取懷之。以為潛藏此
品。後可恃以究今夕事。6頁

見れば戸棚のうゑに十字架がひと
つかけてあり、それにはキリスト
の小さな銀の像が鑄造してあつた。
その時、レヲカジはにわかに信仰
心をおこし、それを取って懐にお
さめたのは、この品を持っていれ
ば後日それによって今宵の事を
明らかにできるかもしれないと考
えたからだった。

キリスト像をふところに収めたの
は、証拠とするつもりであつて信
仰心のためではない。この原文を
逸民は、信仰心をおこした、と誤
解した。そのほかは原文のまま
である。

齋藤が大幅に加筆した部分を漢
訳で

は分割し、第8、9回としたことは述べた。ラドロフがイタリアの歴史を解説し、自分で国会を傍聴して帰国後は議員になることをいう。もういちど示して漢訳と対照する。

【齋藤】其時恰も好し。国会議院開場の折りなれば之が傍聴をなしけるに、流石は他国の領属を離れて不羈独立の国となりし程ありて、議場の様、議員の気風大に優る所あるを見てラドロフは太く之を慕はしく思ひ、躬らも国に帰りなば必ず議員の群に入り、民の為に自由の気を盛んにし、国の為に富強を立てんと志を定めけり。106-107頁

【逸民】適當国会議院開会時。因亦入院傍聴。独立之國。其議會規模。議員氣概。果勇勵無前。迥異尋常。賴德羅大愛慕之。自思歸國後。必為議員。鼓民自由之氣。以建富強之國。43頁

ちょうど国会議院が開会しているときだったから院内には行って傍聴した。独立の国であり、その議会の規模、議員の気概は以前にないほどすぐれており、ラドロフは大いに好ましく思った。帰国後はかならずや議員となり、民に自由の気を奮い起こし富強の国を建設するのだと自ら考えたのだった。

この部分は、原文のままに漢訳していると考えてよい。漢訳の動機は、こういう政治的な箇所があるところか。

翻訳の意図などをのべる序文などないから確かなところはわからない。

日訳では大団円、漢訳では第10回の最後部分を比較しよう。

すべての事実が明らかとなり、ラドロフとレヲカジは親族友人のいるその場で結婚式を行なう。ルイを我が子と認めて、めでたしで終る。ここまでは両者ともに共通する。

【齋藤】ラドロフは又其子路易を抱き初て父子の名乗りをなし奇縁初て団円し堂中唯嬉びの声のみ満ちたりけり。凡そ時は何時しも速かに過ぎ去る者なるにラドロフは唯其夜会の長きを感じ一時も早くレヲカジと二人のみとならんことを願ひけるが何しか其願ふ時の来りて人々は皆寢所に入れれば幾干もなく一家の内は寂然として実に静穩なる夜とぞなりぬ。此夜レヲカジ、ラドロフが満心の歡喜一身の恩愛は又筆にて記すべうもあらざれば唯看官の推し思ふに任すのみ。117頁

【逸民】賴德羅又抱其子路易。認為父子。奇縁成於此日。歡樂之聲。溢堂闈室。世争称述。伝為佳話焉。47頁

ラドロフはまたその子ルイを抱きしめ父子と認めた。意外な因縁がこの日に成立したのである。歡樂の聲が室内にあふれゆるがし、世に賞賛されよき物語として伝えられた。

日訳の最後部分「凡そ時は何時しも

速かに」から以下は、逸民にとっては不必要に感じられたらしい。彼は、あっさり省略した。

訳者逸民について

訳者逸民は筆名だと思う。

「逸民」とは別に「治世之逸民」がある。その両者が同一人物であるか否か、不明だ。

参考までに、その作品を次に示す(いづれも未見)。

新安逸民投稿「(短篇時事)冤獄記」

『時報』1908.10.1

逸民「(醒世小説)立憲夢」『十日

小説』1-9冊 己酉8.1-11.5

(1909.9.14-12.17)

逸民「(侠情小説)女丈夫」『小説

新報』6年5期 庚申5(1920)

逸民「(実事小説)中冷凄跡」『小

説新報』6年12期 庚申12(1920)

逸民「(社会小説)財奴悔語」『小

説新報』7年7期 壬戌7(1922)

治世之逸民『新笑林広記』初二集

2冊 上海・改良小説社 宣統

1.3(1909)

治世之逸民『(絵図 社会小説)新

聊齋』巻2 上海・改良小説社

1909.6 説部叢書

治世之逸民『青楼鏡』16回 改良小

説社 宣統1(1909) / 上海・亜

華書局1929.6再版

逸民と称する人物は、人名録などにはでている。たとえば、李子洲(1892-1929)は

中国共産党員だ。また、朱紹良(1891-1963)は日本に留学したことのある軍人だという*6。日本に留学経験のある朱紹良ではあるが、経歴から見ても該作品を翻訳したとは考えにくい。漢訳の発行年が1904年ということは、李子洲は数え年で十三歳、朱紹良は十四歳だ。ふたりともにすこし若すぎる気がする。どのみち特定するだけの資料は、今のところないといわざるをえない。

参考までに記しておく。セルバンテスの『模範小説集』は、現代中国で翻訳されている。(西班牙)塞万提斯著、祝融訳『懲惡揚善故事集』(上海・新文藝出版社1958.8。英訳1908年版からの重訳)だ。しかし、「血の呼び声」は収録されていない。 罫

【注】

- 1) 樽本「最初の漢訳「ドン・キホーテ」」『清末小説から』第88号2008.1.1
- 2) 松柏館書店1935.2.20
- 3) 書名を『谷間之鷲』とするのは誤記だと思った。架蔵の該書初版、再版ともに『谷間乃鷲』となっているからだ。ところが、坂東省次、蔵本邦夫編『セルバンテスの世界』(世界思想社1997.3.31。114頁)に書影が掲げられている。見れば架蔵とは違う表紙で『谷間之鷲』だ。別版があるらしい。また、木村毅、齋藤昌三『西洋文学翻訳年表』(岩波書店1933.7.5。岩波講座世界文学。49頁)にも『(欧洲新話)谷間之鷲』と記載さ

れる。

- 4) 斎藤文子「『ドン・キホーテ』最初の邦訳と渡邊修次郎」(京都外国語大学イスパニア語学科編『『ドン・キホーテ』を読む』行路社2005.3.31)に説明がある。
- 5) 本文の回目では「褐延」とあるが、誤植だろう。
- 6) 趙建群「朱紹良」朱信泉、婁献閣主編『民国人物伝』第12巻 北京・中華書局2005.9

【参考】

- セルバンテス / 牛島信明訳『模範小説集』国書刊行会1993.11.25
- スペイン中世・黄金世紀文学選集5
- 蔵本邦夫「『ドン・キホーテ』随想」『日本古書通信』第46巻第9号(通巻626号)1981.9.15

『清末小説』第32号予告

- 曾孟樸の初期翻訳(上) 樽本照雄
- 林訳小説《紅簾記》などの原作(上) 渡辺浩司
- 林紓與柯南・道爾其他小説的翻譯 ... 郝 嵐
- 書家としての呉禔 沢本香子
- 嗣《瀛寰鎖記》之《屑玉叢談》 ... 田 若虹
- 《盛京時報》近代小説目録 張永芳 王金城 馮涛
- 李伯元遺稿(11) 李錫奇『南亭回憶録』より

《十月寒霜記》の原作

渡 辺 浩 司

1

《小説月報》第十巻第一号(商務印書館,1919年1月25日*1)に《偵探小説 十月寒霜記》なる短篇小説が掲載された。書名の下に“原名 The october blight / 譯 Casse l'is magazine”とあり、原作も掲載誌も明らかにされている。この原作者が判明したので、本稿でそれを報告したい。

原作者は、Anthony Melville Rud で、1893年生、1942年卒のアメリカの作家である。1910年代末から作品を発表し、1920 - 30年代にかけて活躍し、雑誌の編集長にもなっている。この『The October Blight』は、探偵 Jigger Masters もの第一作で、後には長篇も書かれている。残念ながら、『Cassell's Magazine』の第何号に掲載されたのかは不明であった。ただ、『The Green Book Magazine』(1918年3月 - 実物未見)にも掲載され、全文がインターネット上で公開されている。本稿では、この公開されているテキストを使用した*2。どちらの雑誌が初出なのかということについては、原作者がアメリカ



力の作家であり、他の短篇の発表誌から見ても、恐らくはアメリカの『The Green Book Magazine』掲載の方がイギリスの『Cassell's Magazine』掲載よりも早いと思う。

『The Green Book Magazine』掲載時期をとっても、中国語訳の発表は一年もたっておらず、非常に早い。また、面白いことに、日本語訳『探偵小説 拾月の恐怖』(訳者不記)も雑誌『新青年』第二卷第十号(博文館, 1921年10月1日)に発表されており*3、これも早い。中日両国で、まだ有名ではない作家の同じ短篇作品がこれほど早く翻訳されるのは珍しいと思う。

訳者の劉麟生は、原籍安徽、1894年生、1980年卒。上海聖約翰大学在学中から著述を始め、卒業後、出版社や大学等に勤

めた。その後、外交関係の職に就き、1956年アメリカに渡り、そのまま移住した。訳書には、Thomas More 原作《烏托邦》等がある。

2

主人公 Jigger Masters の友人、Bert Hoffman の一人称で語られる『The October Blight』のあらすじを紹介する。

私(Bert Hoffman)の所に、旧友の Crosby Braithwaite が訪れ、肖像画を描くよう依頼される。彼の様子が奇妙だったので、尋ねると、私の知り合いの謎の男を紹介してほしいと言う。その理由は次の通りであった：彼の父、兄弟二人、女中の四人が五年前から相次いで十月中に突然亡くなった。そこに関連があるかを内外の探偵に調べさせたが、何も無いとのことだった。しかし彼は関連があると信じ続け、十月一日の前日に私のもとを訪れたのだった。私は謎の男 - Jigger Masters に連絡を取り、援助を頼んだ。Masters が承諾したので、彼に引き合わせ、事情を詳しく説明させた。そして、三人はその屋敷に向かうことになった。Masters は四人の死亡時の様子を細かく尋ね、更に屋敷にどんな人がやって来るか、特に八、九月に来る人を聞いた。

屋敷に着くと、Masters は手斧を借り出し、死者の寝室を調べて回った。その後、Masters は、自分と私ともう一人で使用人をやるので、八、九月に屋敷を訪れる三人の親類(いとこの Hal、おじの Thomas とその妻)を呼ぶよう Crosby に言い、その三人が来れば、明日厳しく冷え

そうだという話題を出すよう指示する。そして、私には気象観測所に行き過去五年の十月の気温データを入手してくるよう言った。私が用事を終えて戻ると、Masters は庭師として外にいた。Crosby は私に三人は十月には屋敷にいなかったのになぜだろうなどと話しかける。後、Crosby が車でその三人を連れてくると、私は外見から Hal が怪しいと感じた。Crosby は指示通り、明日の冷え込みを話題にし、鹿狩りに行こうと話す。Hal は賛成したが、Tom (= Thomas) は多忙ということで、夜の列車で帰ると言った。みんなが夕食の仕度で一旦分けれると、Masters は私に Crosby の部屋を見張るよう指示を出した。その後、みんな食堂に入ったが、しばらくすると、Tom が Crosby の部屋に入って行った。私はすぐに Masters に知らせ、二人で部屋に向かった。ちょうど部屋から出ようとした Tom に出くわし、取っ組み合いになる。Tom は銃を抜いたが、私はそれを取り上げ、それで頭を殴りつけ、おとなしくさせた。その時、女性の金切り声がし、見ると Tom の妻が銃を Masters に向けていた。私はとっさに灰皿スタンドで彼女の手首を突き、弾は外れた。すぐに彼女を捕まえ、そこに Hal と Crosby が現われた。Masters は夫妻を縛り上げ、今晚からの天気予報を聞かせた。そして、四人殺害に関する告白書を取り出し、夫妻に署名するかさもなくば一晩中この Crosby の部屋のベッドの上に置き去りにすると迫った。まず妻が折れ、次に Tom がサインした。すると、Masters はベッドを動

かし、壁の上部からフラスコと中にフラスコが入ったティーカップを引き出した。Tom らはその仕掛けでアルシンを発生させていたのだった。警察の到着を待つ間、Masters は推理の過程を語った：ドイツ軍が使用したアルシンの原料の砒素の出处を探ったことがあり、そこに今回の事件があった。四人も亡くなったのは偶然ではありえないし、Braithwaite 家の財産狙いという動機もあり、その死者の状況から、即効性は低いがわずかな量で必ず命を奪う毒ガス - アルシンが使われたと断定した。発生する仕掛けについては、ティーカップの中の水が凍って膨張すると、その上のピーカーが倒れて、中の硫酸がフラスコの方に流れ出し、フラスコ内の砒素と亜鉛に反応してアルシンが発生するようにしていた、そして八月に来た時に、寝室のベッドの壁の上部にスペースを作り、その装置を仕掛けたのである。それが十月の霜が下りる最初の夜に作動し、四人の命が奪われたのであった。

警察の護送車が来た時、Crosby は「神よ、彼らの御霊にお慈悲を与えたまえ」と厳かに言った。

原作者 Anthony M. Rud は、両親が医学博士で、本人も医大に通ったことがあるというので、犠牲者の死亡状況の描写にその知識が活かされているようである。また、ドイツへの砒素の供給源を探るといのは真実味を帯びており、原作発表当時はドイツはまだ降伏しておらず、うまく情勢を採り入れていると思う。

3

中国語訳について述べる。他にも訳されていた場合の参考にできると思うので、主な固有名詞の対照表を掲げる。

原文	中国語訳
Masters	馬司透
Hoffman	好夫曼 あるいは 好司曼
Crosby	科勞斯派
Thomas	湯末斯

内容については、所々省略しながら、筋は変えずに訳している。どのように省略しているかを示す例を挙げる。Masters が Crosby の話を聞く場面である。日本語の訳文は、上述の『探偵小説 拾月の恐怖』を参照した。

I was watching Masters closely, and saw a blank look come into his eyes. For all the world it seemed as if he had suddenly lost all interest in the details of the case, but from what I learned of him afterward, knew that this simply was a symptom of concentration. (6頁右)

(私はずっと Masters を見ていた、彼の眼にぼんやりとした感じが現われたように思えた。どこから見ても、彼が事件の詳細についての興味を突然に失ったかのようなだった、しかし後に聞いたのだが、これは単に神経を集中している表れなのであった。)

余斯時微睨馬司透。見其目瞪不語。

似甚失望。(3頁上,句点は原文のまま)
(私はその時馬司透を横目で見ました。彼は目を見開き何も話さず、とても失望したようでした。)

原作は Masters の特徴を述べているのであるが、中国語訳はそれを省略し、失望したままで終わらせてしまった。

他に、原作では、「私」が Masters に連絡する前に、Crosby に対して、Masters について探ろうとしないことと彼と会ったとしてもそれを口外しないことに誓約を求め、Crosby がそれに応じ、右手を挙げて誓約する(4頁右)。Masters が世間に対して探偵という看板を掲げていないことがわかる記述であるが、中国語訳ではほとんどが省略されている(2頁上)。

原作では、Crosby が Masters の指示に従い、Hal と Tom 夫妻に厳しい冷え込みがあるという話をする(10頁左 - 右)。これは犯人に犯行を促すための重要な点だと思っただけだが、中国語訳では省略されている(6頁上 - 下)。

更に、原作では、Tom 夫妻を捕まえ、Crosby が警察に連絡している間、Masters が「私」に弾をはずしてくれた礼を言い、自分が事件を手がける時、いっしょに来ないかと告げる場面がある(13頁左)。Jigger Masters もものシリーズ化を予想させる記述であるが、本作の物語には関係ないので、中国語訳では礼を言うだけになっている(9頁上)。

誤りも見られる。上述の Masters の特徴を述べた後の Crosby の台詞で、ゴルフ場で見つかった父の死亡状況を話す場

面である。

“ I found him beside the fifth tee, all doubled up and dead! His ball was all ready for a drive, and his driver lay beside him, so whatever it was that struck him must have come suddenly.” (7頁左)

(「.....私は5番目のティーグラウンドのそばで父を見つけました、身体を二つに折って亡くなっていたんです! ボールは打つ用意がしてあり、ドライバーは父の横にありました、父を襲ったものが何であれ、それは突然やって来たに違いないのです。」)

“見吾父臥於哥爾夫球戲第五土堆旁。四肢蜷曲。奄無氣息。與吾父拍球某君。亦倒地上。距吾父之處不遠。吾知彼等必櫻急症無疑。”(3頁上,引用符は補った)

(「.....父がゴルフ(場)の5番目のティーグラウンドのそばに倒れているを見つけました。手足が曲がって、息もほとんどありませんでした。父とゴルフをしていた某君も倒れていました。父が倒れていた所から遠くありませんでした。彼らが急病に襲われたのは間違いないとわかりました。」)

中国語訳は犠牲者が一人増えてしまった。“ driver ” をゴルフ仲間と間違えた

のであろう。外国のスポーツの翻訳は難しい。

次に、Tom が仕掛けたアルシン発生装置を取り出す場面である。

Masters handed the paper to Crosby Braithwaite, jerked out the bed from the outside wall, and then reaching up slightly above his head, pried out what seemed to be a solid piece of log from its place. Reaching his hand into the space made, he drew out a flask which contained a little white powder and metal scrapings, (12頁右)

(Masters は Crosby Braithwaite にその紙を手渡し、外側の壁からベッドを動かした、そして頭上に軽く手を伸ばし、丸太の一部のように見えた部分を苦勞して引き抜いた。その空いた所に手を入れて、少量の白い粉末と金属片が入ったフラスコを引き出し、.....)

馬司透以此紙交科勞斯派。復移牀外出。不使近牆。在空處搜索良久。於床脚果得一物。一長頸玻璃瓶。中實以白粉。及五金雜屑。..... (8頁上 - 下)

(馬司透は科勞斯派にその紙を手渡し、ベッドを外に出し、壁から離れた。空いた所を長時間捜し、ベッドの足元からある物を見つけた。それは首の長いガラス瓶で、中は白い粉

と金属片でいっぱいだった。……)

中国語訳は、ベッドの下に装置があったように読める。それならば、Mastersが屋敷に来た時に行なった手斧による壁の搜索が無駄になってしまうし、ベッドを動かした跡を調べるだけなら、長時間はかからないだろうと思ってしまう。また、アルシンは重い気体で、ベッドの上に仕掛けるから、ちょうど睡眠中に上から漏れてきたアルシンを吸入してしまうことになるのである。更に、白い粉(=砒素)と金属片(=亜鉛)でいっぱいのフラスコならば、屋敷中の人間を殺せるほどのアルシンが発生するのではないかと思う。この部分は翻訳が雑になっているように思える。

もう一つ、単語の誤りを挙げる。アルシンの化学式“ AsH_3 ”(12頁右)を中国語訳は“ASH”(8頁下)としている。アルファベットの綴りミスは現在に至るまでよく見られる。

4

原作が発表された当時は、第一次世界大戦末期で、戦闘で使用された新兵器についても報道されることがあったであろう。その中で、形を持たない毒ガスは、戦車や飛行機と異なり、規模の小さな犯罪にも使えるということで、探偵小説の大きなヒントにもなったと思われる。それをいち早く採用した『The October Blight』が、発表からそれほど間を置かず中日両国で翻訳されたのは、もちろん物語が複雑ではないという理由もある

うが、架空のものではない、未知の物質による犯罪を描いた小説だったからであろう。 罫

【注】

- 1) 《小説月報》は東豊書店の影印《小説月報 自創刊號起至廿二卷十二期止》(1979年10月)を使用した。影印には奥付が無いので、発行年月日については、『新編増補清末民初小説目録』(樽本照雄編, 齊魯書社, 2002年4月)を引用した。
- 2) http://pulpgen.com/pulp/downloads/list_by_author.php?page=33の“Anthony M. Rud”項からダウンロードできる。
- 3) 日本語訳がどの雑誌に拠ったのかは不明。

【参考文献・ホームページ(HP)】

- 陳玉堂編著《中国近現代人物名号大辞典》浙江古籍出版社, 1993年5月
- 那智史郎「作家紹介」- アンソニー・M・ラッド他著, 那智史郎・宮壁定雄編『ウィアード・テールズ 第1巻』(国書刊行会, 1984年7月31日)所収
- 橋川時雄編『中國文化界人物總鑑』(中華法令編印館, 1940年10月25日) 名著普及会「覆刻版」(1982年3月20日)を使用
- William G. Contento 管理 HP「The Fiction Mags Index」
<http://www.philsp.com/homeville/FMI/Ostart.htm> (2009年7月10日確認)
- Larry Estep 管理 HP「PulpGen.com」

http://pulpgen.com/pulp/ (2009年7月10日確認)

Duane Spurlock 管理 HP 「Pulp Rack」
http://pulprack.com/ (2009年7月10日確認)

晚清小説作者扫描 (貳拾)

武 禧

『中国現代文学研究叢刊』2009年第2期
(總第127期) 2009.3.15

晚清語境中的魯濱孫漢訊 《大陸報》

本《魯濱孫漂流記》的革命化改写

.....李 今

桐城文章的“別樣風景” 以嚴復、林

紆的翻譯為中心吳 微

晚清小説訳介中の文類選択 兼論周氏

兄弟の早期訳作張麗華

一本“戦記”小説の日中轉換 從《肉

弾》到《旅順実戦記》

..... [日] 藤村裕一郎

林紆与周作人兩代翻譯家的訳述特点

從哈葛德小説 *The World's Desire*

説起鄒瑞珩

陳建華編『文学的影響力 托爾斯泰在
中国』南昌・江西高校出版社2009.6

托爾斯泰略伝及其思想寒泉子

俄大文豪托爾斯泰小伝佚 名

托爾斯泰之平生及其著作凌 霜

(『文学的影響力 托爾斯泰在中

国』) 後記陳建華

(零九七)

旅生

小説创作:《痴人说梦记》

旅生: 真实姓名不详。在《绣像小说》发表《痴人说梦记》。又与欧阳巨元、遯庐合撰《维新梦传奇》发表在《绣像小说》。

(零九八)

王妙如

小説创作:《女狱花》

王妙如(约1877—约1904): 浙江钱塘人。名保福。幼聪慧,嗜史书。约1900年出嫁,丈夫名唐景仁。著有社会小说《女狱花》(又名《闺阁豪杰谈》《红闺泪》)。另有《小桃源传奇》《唱和集》等。(《上海妇女志》第十篇女子教育和妇女保健、文化事业中第三章妇女出版物的第一节妇女报刊中刊有1898年—1918年“早期妇女杂志”表:1904年有《女岳花》,创办主编人为王妙如。如此可以理解为当时还有一本王妙如创办并主编的杂志《女岳花》。详情待考)

本誌96号の公表は2010年1月1日を予定

(零九九)

荒江钓叟

小说创作：《月球殖民地小说》

荒江钓叟：真实姓名不详。著有《月球殖民地小说》。

讨论：研究者对《月球殖民地小说》的评价是“中国第一部科幻小说”，对其作者多有探讨。目前并没有明确考证出“荒江钓叟”的真实姓名。研究者以为“当时，所有的小说均非‘主流文学’，写作小说被视为文人末技，以至于作者们都不愿著真名，对生平也多有隐晦。所以，考证晚清科幻的许多作者的真实姓名比较困难。《月球殖民地小说》的作者著名“荒江钓叟”，到现在也无法一窥真容。”但是一些文章经常用如此的语句表述晚清翻译家徐念慈与‘荒江钓叟’的关系：“徐念慈与《月球殖民地小说》”“徐念慈与他的《月球殖民地小说》”。有些图画将两者并列（如下图）都暗示着“荒江钓叟”就是徐念慈。



(一零零)

守一

小说创作：《痴人说梦》

吴汝澄（1873-1946）：安徽桐城人。

字守一。年轻时厌恶八股文。曾为“爱国学社”成员。任安徽巡防营统领韩大武文案时，两江总督端方曾因“爱国学社与东京拒俄义勇队互通消息，实为排满，且密布党羽，希图大举”密令韩大武“务将陈仲甫(即陈独秀)等学社的为首分子一体缉获，无任逃遁”。吴汝澄先得到这一密令，通知陈独秀连夜转移而免遭逮捕。1904年陈独秀创办《安徽俗话报》，吴汝澄为文艺副刊编辑，负责小说、杂文、漫画方面的稿件。同年又任桐城中学教员。后入同盟会，积极参加反清活动。辛亥革命后任皖维持统一机关处副秘书长，安徽都督柏文蔚秘书等职。曾以国民党员身份当选国会议员。1918年—1919年任桐城中学校长。后曾任教于北京中国大学。“九一八”事变后返回家乡桐城。1940年到1943年任安徽省参议员。1946年病逝于桐城。任职《安徽俗话报》时撰写小说《痴人说梦》并发表。

(一零一)

非想

小说创作：《自由花》

非想：真实姓名不详。

(一零二)

海天独啸子

小说创作：《女娲石》

海天独啸子：真实姓名不详。撰写有小说《女娲石》，翻译有日本押川春浪《空中飞艇》

(一零三)

挽瀾

小説創作：《双劍血》

挽瀾：真實姓名不詳。應生于1885年左右，1916年仍在世。1905年發表有《身外身》《美人脂》《双劍血》。1916年為俞天憤短篇社會小說《清涼》撰評。故應與俞天憤相識。（又有名“挽瀾女士”者，真實姓名陳墨峰。“挽瀾”與“挽瀾女士”是否一人待考）

了解俞天憤或可為尋挽瀾之線索：

俞天憤(1881-1937)：江蘇常熟人。又名承業，字彩生。別署俞愍。以筆名天憤行世。父名金門，工詩，善書法。其妻姚鴻菴亦工詩。一門風雅，曾結家庭詩社“麗紅社”。俞天憤幼承家學，無書不讀。好詞章及繪畫，且好稗官野史。清末，著有《法國女英雄彈詞》。1911年曾自組家鄉青年，保衛鄉里。曾試圖為改良地方市政而無果。遂閉門著述小說為主。後謹遵父命，皈依佛門，著《呻吟集》，以闡發佛旨。以偵探小說名重一時，所著《中國新探案》和《中國偵探談》二書，為中國偵探小說之濫觴。稍後以偵探小說著名的程小青、陸澹安、孫了紅等，都曾受其影響。尚有短篇小說數十篇，散見於《民權報》《小說叢報》等，迄未成集，長篇小說有《薄命碑》、《鏡中人》、《綉囊記》。

清末小説から

野間信幸氏より資料の提供を受けました。
感謝します。

李潤波（『晚清新聞画報収蔵』）序
李潤波主編『晚清新聞画報収蔵』
杭州・浙江大學出版社2008.11

姜榮剛（『恨海・情變』）前言 吳
趸人『恨海・情變』北京・團結
出版社2009.1 晚清民國小説珍
本叢刊

文娟『結縁与流變 申報館与中
國近代小説』桂林・廣西師範大
學出版社2009.3

胡纓著、龍瑜成、彭姍姍訳『翻譯の伝
説：中國新女性的形成（1898-
1918）』南京・江蘇人民出版社
2009.5

凌宏堯 晚清小説の演進与流布 評
《晚清小説目錄》『古籍新書
報』第81期（總第237期）2009.5.
28

辜美高卷『明清小説与中國文化叢論』
新加坡青年書局2009.6

南洋大學學術論叢第2系列第2卷

黃世仲弟兄發表在新加坡《天南新報》的
社論、詩歌

清末新加坡《叻報》附張的小説

『五味雜陳話劉鶚
紀念劉鶚逝世一百周年』

葉立生主編 北京・中國文史出版社2009.3
外婆故事的故事（代序）……熊必琳
前言……葉立生
劉鶚生平……王生龍、許文金
劉鶚故居……劉德馨
劉鶚墓地追尋記……陳民牛
劉鶚墓地的墓碑何時調整……秦九鳳
劉鶚与淮安……陳民牛
劉鶚与淮安琴藝……張璞、葉占鰲
劉鶚在淮安的軼事

.....金志庚、徐洪亮、葉占鰲
 劉鶚生平業績与師承關係研究.....劉德隆
 《老殘遊記》与淮安劉懷玉
 浅論劉鶚陳 遼
 劉鶚与羅振玉武 禧
 劉鶚与《鉄雲蔵龜》魯棣霖
 劉鶚の治河経歴給治河思想.....杜 涛
 劉鶚行医生涯及其医学著作.....殷大彰
 对劉鶚“漢奸”之管見陳民牛
 劉鶚の経済思想劉蕙孫
 從《老殘遊記》看劉鶚眼中的明清社会
郭寿齡
 得魚都是粉紅鱗 劉鶚存詩浅談
莊月江
 重視資料 深入研究 对劉鶚研究的一
 些拙見嚴薇青
 劉鶚及《老殘遊記》資料摭拾.....劉懷玉
 劉鶚名、字、筆名、室名索引
 劉鶚著作及版本
 劉鶚生平紀事(年表)
 国内外劉鶚研究論文題録.....李志軍輯録
 劉鶚家族世系簡表

『明清小説研究』2009年第2期(總第92期)

2009 発行月日不記

晚清小説《亡国淚》考証及其他
謝仁敏
 韓子雲家世新考陳万華
 《民呼日報》与小説有関編年.....陳大康
 李伯元の家世与誕生地王学鈞

劉增傑、孫先科主編

『中国近現代文学転捩点研究』

上海文藝出版社2008.9

關於文学転捩点涵義的辨析.....吳福輝

梁啓超与文学界革命関愛和
 近代文学觀念理論基礎的變動.....王 颯
 嘉道之際：中国近代文学の开端
胡全章
 論中国現代文学史起点的“向前移”問題
范伯群
 新南社：五四前後文学転型的青果
孫之梅

『清末小説から』第94号 2009.7.1

「老殘遊記」執筆経過の謎 2 完

.....樽本照雄
 《蔓陀羅克》の原作渡辺浩司
 從 MS.FOUND IN A BOTTLE 到《冰洋
 双鯉》 論清末民初意識風尚背後
 的策略選択吳 燕
 晚清小説作者掃描(19)武 禧

【清末小説研究会の本】

樽本照雄編
 清末小説研究ガイド2008 清末小説研究資
 料叢書11
 B5判 203頁 限定200部 定価：3,150円
 樽本照雄著
 清末翻訳小説論集
 A5判 上製 箱入り 414頁 限定150部
 定価：8,400円
 樽本照雄編
 阿英『晚清小説史』ほか索引 清末小説
 研究資料叢書10
 B5判 83頁 限定200部 定価：2,100円

【清末小説研究会の本】

樽本照雄著

林紓研究論集

A5判 上製 箱入り 409頁 限定150部 定価：8,400円

林紓（りんじょ）が批判されるのは、主としてふたつの側面からです。彼の外国小説翻訳および五四直前の行動になります。

林訳小説が当時の中国文芸界に与えた大きな影響について高い評価を与える研究者はいます。しかし、同時に翻訳の欠点をあげるのが常です。最大のものは、外国の戯曲を小説にかえて翻訳したことでした。戯曲と小説の区別がつかない、と非難が集中しています。また、1919年において武力を背景に文学革命派を攻撃したというのも理由のひとつです。

現在にいたるまで林紓批判は止むことがありません。しかし、その根拠とされているそれらの事実は存在しないのです。証拠もないのに濡れ衣を着せつづける熱心な研究者が、いまだに出現しています。過去の研究をふりかえれば、その根は相当に深いといわざるをえません。本書は『林紓冤罪事件簿』につづく第2論文集です。

【内容目次】

阿英による林紓冤罪事件	『吟辺燕語』	林紓落魄伝説	
序をめぐって		陳独秀の北京大学罷免	『林紓冤罪事件簿』補遺
林訳「ハムレット」	『吟辺燕語』から	1 北京大学をめぐるウワサが事実になるとき / 2 北京大学改組と陳独秀の罷免 / 3 林紓の皮肉	
ラム版『シェイクスピア物語』最初の漢訳	と林訳 「十二夜」を中心に	周作人が魯迅を回想して林紓に言及する	
林訳シェイクスピア	クイラー=クーチ	日本語訳注釈について	
版「ジュリアス・シーザー」		『林紓冤罪事件簿』ができるまで	あ
林訳チョーサー		るいは発想と研究方法について	
林訳ユゴー			
中国現代文学史における林紓の位置			

清末小説研究会

<http://www.biwa.ne.jp/~tarumoto>